

三九一は 草でうまくなる

3



ハコベとミカン。ハコベは丈が低く作業性がいい

厄介な草、問題ない草、 お気に入りの草

和歌山・岩本 治

土の状態で生える草が違う

現在は、自然に生える草と人為的に植える草の両方で草生栽培をしていますが、今回は自然に生える草のことを紹介します。草にはイネ科やキク科アブラナ科などの科があるだけでなく、1年草、2年草、多年草、宿根草などの違いもあります。

草とミカンの関係を見ていくと、栽培方法によって生える草が変わることに気付きました。土のやわらかさ、肥料分、pHによって生える草が変わるからです。つまり、生える草によって土の状態がわかるということです。

たとえば、肥料分があつて土がやわらかい畑、除草剤を運用した畑、空き地を見比べてみると、生えている草が違うことに気付きます。肥料や有機物のあるやわらかい土壤の畑には、カラスノエンドウなどのマメ科やハコベなど。除草剤を運用した畑では、ヒメム

土の状態で生える草が変わる

土の状態	生えている草
肥料や有機物があるやわらかい土	カラスノエンドウ、ハコベ、ヤエムグラ、カタバミ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ
除草剤を連用した土	ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギクなどの草
かたくて肥料分がない土	ススキ、チガヤ、スズメノカタビラ、セイタカアワダチソウ

カシヨモギやオオアレチノギクなどの草も除草剤に抵抗性のついた草。土がかたくて肥料分がない空き地には、ススキやチガヤなどのイネ科の草が生えます（詳しくは表参照）。

ミカン園のなかでも、ミカンの樹のまわりには肥料をまくのでマメ科が多く生えたり、樹冠で陰になつていてるところには草が生えにくかつたりと違います。草はそれぞれの性質に合った土に生えてくるのです。

酸性土壤に生えるといわれているス

ギナは、じつは中性でもしつかりと生えていることが多く、肥料分の多少で生え方が変わります。肥料分が少ない場所ではツクシが出てからスギナに変わりますが、多い場所ではスギナだけが出てきます。スギナにはカルシウム分があるので、酸性土壤の場合は自然に枯らせばpHを調節してくれます。

巻きつかず 丈の低い草がいい

ここからは畑に生える草を私なりに3つにタイプ分けして紹介します。

厄介な草 ：樹に巻きつくつる性植物

一番厄介なのは、地下茎が残るビルガオ、アサガオ、ヤブガラシ、ヘクソカラズラ、ノブドウなど。樹に絡みつき、ミカンの果実とも養分競合します。地下茎でどんどんはびこるのでやすのが難しい草です。



ミカンの樹に巻きついたノブドウ。役立つこともあるが基本的に厄介者

(221)

ただし、直風が直撃する畑では倒立つこともあります。ミカンの樹のそばに生えていたヤブガラシとノブドウをわざと覆いかぶせてみたら、風が当たりやすい樹でも枝折れや倒木の被害がほとんどありませんでした。ただ、樹に巻きつかせたままだと収穫などで困るので、なるべく切らないようになるを下ろしてぐちやぐちやにまとめておいたら、つるが次第に枯れていきました。つる性ではないのですがヤエムグラも樹に絡みついてしまうので、邪

(220)

魔な場合は倒して寝かせます。

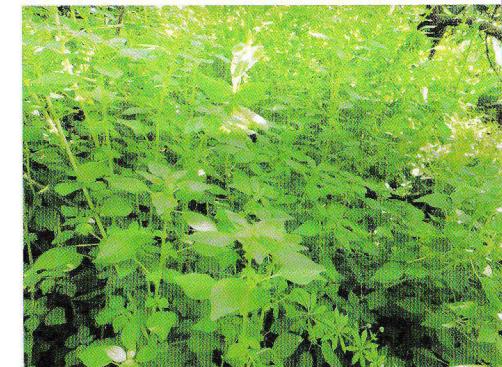
問題ない草…キク科、アブラナ科

キク科にもたくさんの種類があります。ノボロギク、ノゲシ、ニガナ、センダングサなど。直根があつて根が深いのが特徴です。ノゲシの根が雨水の溜まった水槽内に伸びて、びっくりするぐらいに広がったことがあります（下の写真）。それだけ土を耕してくれることです。ナズナやタネツケバナなどのアブラナ科は、肥料分が少ない土壤でもよく生えてきます。

キク科やアブラナ科の草が生えていてもそこまで気にしませんが、丈が高いものはあまり増えてほしくありません。とくに、キク科のセンダングサやノゲシはタネが大量にできて増えすぎてしまうので、見つけたら引き抜きます。アブラナ科のセイヨウカラシナも丈が高く、タネができるまで放置しておくと群生してしまうので、早めに引き抜きます。

お気に入りの草…低い草、イネ科
煙に生える草でお気に入りなのは、ハコベ、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ヤブチヨロギ、フウロソウ、カタバミ、カキドオリなど。どれも草丈が低いからです。肥料分が少なめでかための土には、イヌムギ、カラスマムギ、エノコログサ、メヒシバなどのイネ科の草が生えます。これらは丈が高く作業性は落ち

ますが、いいところがたくさんあります。ひげ根を広く張り、ちょうどビミカンの細根がたくさん出る深さ10~20cmを耕してくれるイメージです。また、アーバスキュラーアンという菌根菌がよく付きます。この菌が働くことで土壤中のリン酸や微量元素をミカンの根が吸える形にしてくれるので、肥料効果が高まります。ケイ素も豊富で草量も多く、枯れた後は10a当たり1t以上の堆肥を入れたような効果もあり、イネ科は欠かせません。



和歌山県で増えてきたゴウシュウヒカゲミズ。ミカンの樹の下でもよく生える



えぼし生えとばねとスムギとカラスムギを倒したところ
(赤松富仁撮影)

ラクト・バチルス 乳酸菌土壤改良剤の決定版！

土と人と環境にやさしい
稻・野菜・果樹・花…
あらゆる作物に

JAPAN ORGANIC COMPANY
日本有機株式会社

お問い合わせ
TEL 0986-76-1091
FAX 0986-76-6554
<https://www.nihonyuki.jp/>

土の免疫力を高め地力向上！
①減肥・減農薬で低成本農業の実現！
②土壌病害菌の生育を抑制し、ミネラルの供給を高め、良質の収穫物が得られる！

総販売元・製造元
薩摩の農文化を世界へ
日本有機株式会社
〒899-8604
鹿児島県曾於市末吉町諒訪方4122
TEL 0986-76-1091
FAX 0986-76-6554
<https://www.nihonyuki.jp/>

少し肥料分がある土に生えるのが、マメ科のカラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサなどです。空気中のチツソを取り込んで土壤に肥料分を蓄えてくれます。最近、和歌山県で増えているゴウシュウヒカゲミズもなかなかいい草です。ふつうは樹冠下などの日陰は草が生えないのでですが、ゴウシユ

ウヒカゲミズはよく生えます。

お気に入りの草を人為的に増やしてもみようとしたこともありました。自然に生える草は、やはり自分に合った土に自分で生えてくるものです。そのなかで、なるべく草丈の低い草を活かすことで、土を团粒化させ微生物も活発にできます。团粒化が進めば、雨ばかりの年も必要以上の水分を流してくれるのです。いいミカンができるようになります。